PRESS　RELEASE

2024 年 10 月 28 日
ダイワ通信株式会社
（東証スタンダード：7116）

エッジAI機器「IWA　BOX」に新機種をラインナップ

～　小規模から大規模まで幅広く対応し、犯罪対策機能、害獣（クマ）検知機能を追加　～

防犯カメラを用いたソリューションを展開するダイワ通信株式会社（本社：石川県金沢市、代表取締役社長：岩本秀成、以下「当社」という。）は、エッジＡＩ機器「IWA BOX」に新機種をラインナップしたことをお知らせいたします。

●新機種

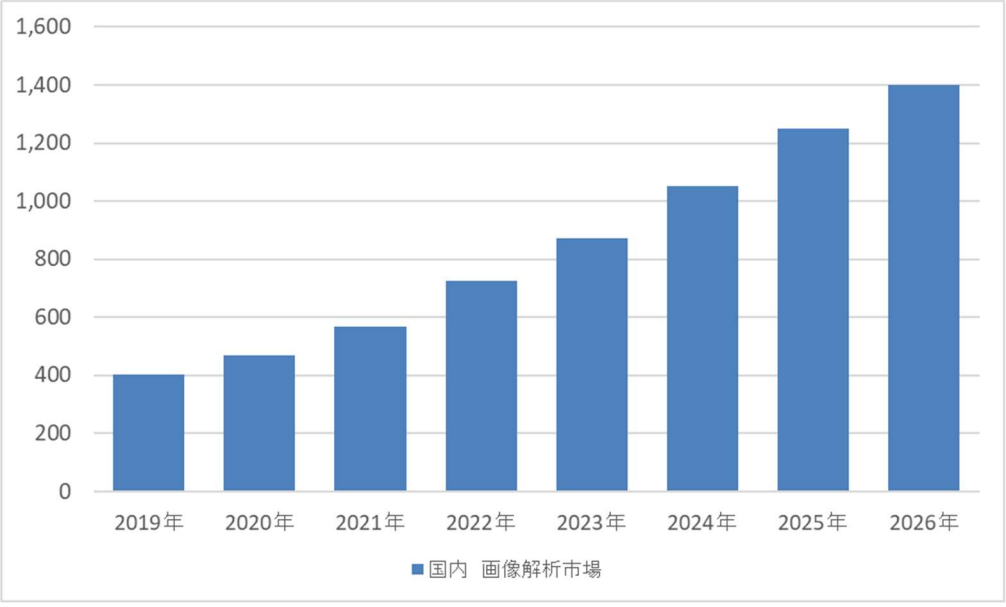
①IWA BOX　２チャンネルモデル

②IWA BOX　16 チャンネルモデル

新たに（人・車両の）長時間滞在検知機能、クマ検知機能が追加されています。

●拡大傾向のＶＣＡ（※）画像解析市場

当社では、ＶＣＡ画像解析市場は拡大傾向にあると考え、特にＡＩ（ディープラーニング）を活用したＶＣＡ画像解析ソリューションへの期待も増えてきていると考えています。ＤＸ推進による業務の省人化や効率化を目指す動向から、顔認証を活用した入退室管理システムや動体検知・異常行動検知よる通報システムの活用が広まってきていると認識しています。（※）ＶＣＡ：Video Content Analysis の略



図．ＶＣＡ画像解析システムの市場規模（国内）

出典：株式会社矢野経済研究所「2021 年度版ネットワークカメラ/ＶＣＡ画像解析システム市場」

●新機種のラインナップの目的

当社では、ＶＣＡ画像解析システムの推進における導入障壁を導入コストにあると考えています。また、コストに対する投資対効果が不明瞭であることだとも考えています。この課題解決への取組みとして、エッジＡＩ機器の充実化を考え、今回の新機種をラインナップし、これにより小規模から中大規模のシステムを安価に構築することが可能となります。

「IWA BOX」を既設カメラと組み合わせることで比較的安価なＡＩ検知システムを構築することができます。

●新機能①：人物、車両の長時間滞在検知

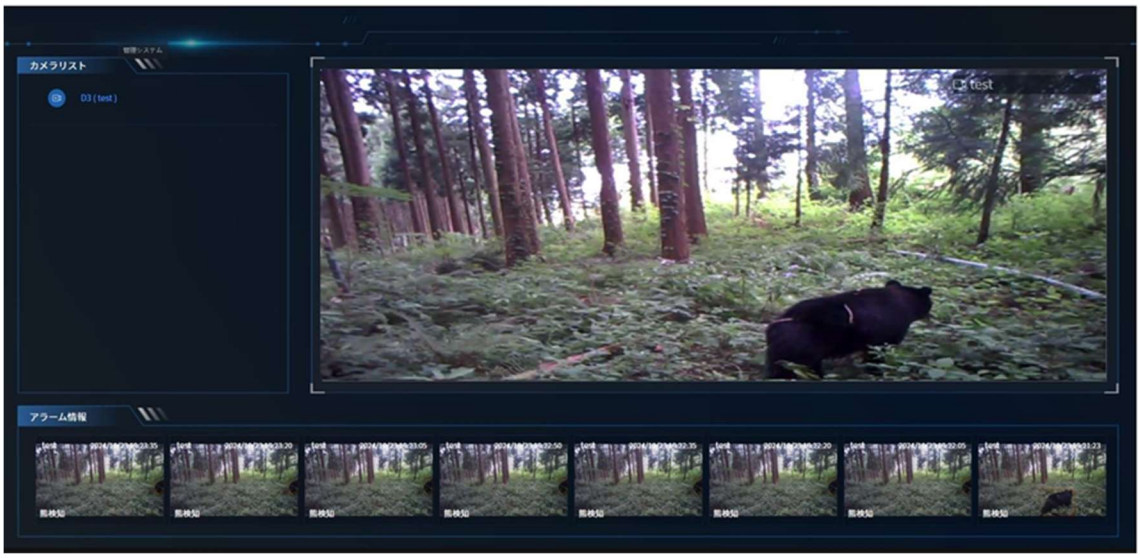
SNS を利用した計画的な犯行の事件が起きています。多くの事件の場合、事前に下見を行うことが多いことから、長時間滞在や違法駐車を検知する新機能を「IWA BOX」に追加しました。当社では、玄関や自宅周囲に設置した防犯カメラと「IWA BOX」を組み合わせることで犯罪対策システムを構成し、不審な人物や車両を検知した際に、専用アプリから通知が届き、被害の最小化を目指します。

●新機能②：クマ検知

クマによる人への被害は年々増加し、獣害対策は地域社会にとって解決すべき問題です。そこで、当社はクマ検知システム「FACE BEAR（フェイスベア）」で採用したＡＩ（ディープラーニング）を応用した機能を、「IWA BOX」の新機能として追加しました。

観光地や商店街において、既に設置されている防犯カメラと「IWA BOX」を組み合わせることで、クマ検知システムを構成し、そのシステムから発する警報で被害の最小化を目指します。

今後、クマ以外の害獣にも対応した製品展開を行う予定です。



図．参考画像

今後も当社は、誰もが安心・安全・便利に暮らせる未来の街＝Safe City の実現に向けて様々なソリューションの提供に取り組んでまいります。

【本件に関するお問合せ先】

ダイワ通信株式会社　広報担当　TEL：076-291-4000　E-mail：ir@daiwawa.com